

三浦半島で再発見されたタシロラン

大 森 雄 治

A rare saprophytic orchid, *Epipogium roseum* from Miura Peninsula

Yuji OMORI

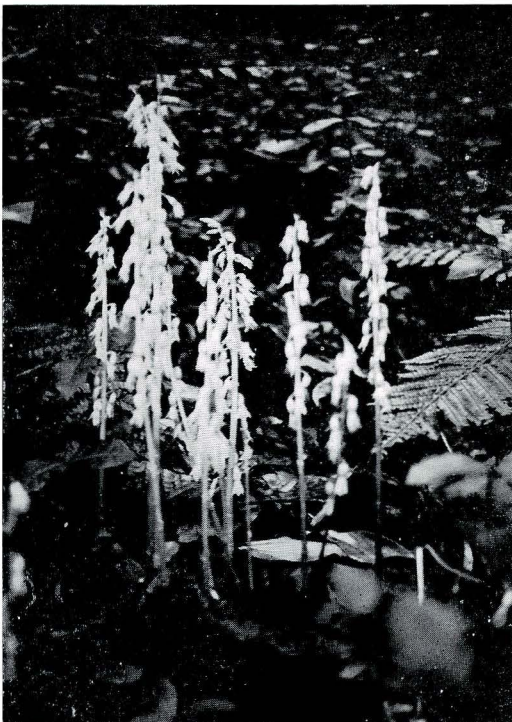
本州以北ではこれまでに2度、1958年7月に三浦半島北部の鷹取山（大谷，1959，1960；OFANI・SUZUKI 1961）と1978年7月に同東部の久里浜（大谷，1979）で記録されたことのある無葉ランの1種、タシロラン *Epipogium roseum* (D. DON) LINDL. が1983年6月末から7月初めにかけて同じ三浦半島東部の観音崎と馬堀で見つかった。

タシロランは長径が2~4 cmの長楕円形のイモ状の地下茎（花茎塊）から高さ20~50 cmのやや褐色を帯びた白色の花茎を出し、その上部に5，6個から30個程の花をつける。花は7~8 mmの花柄をもち下垂し、長

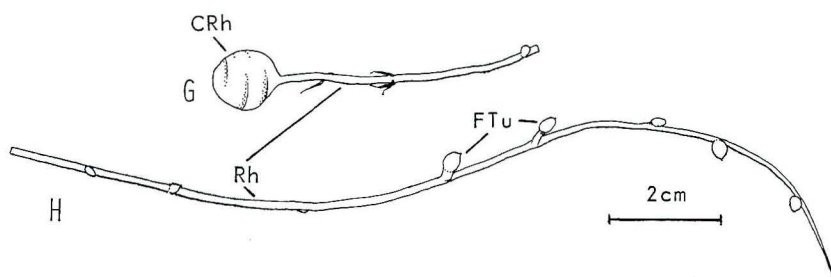
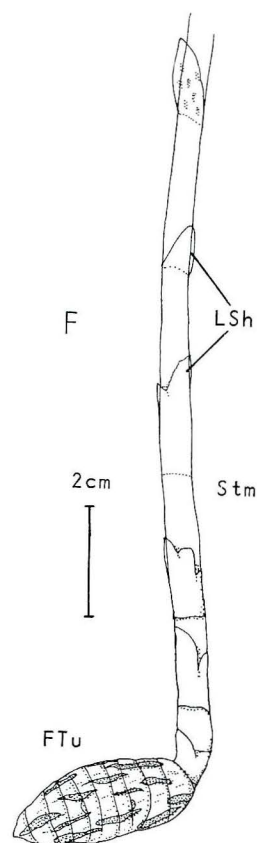
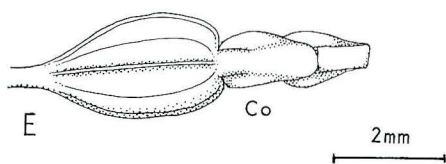
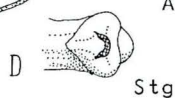
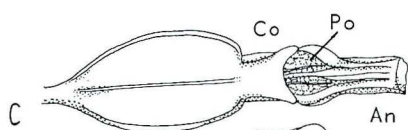
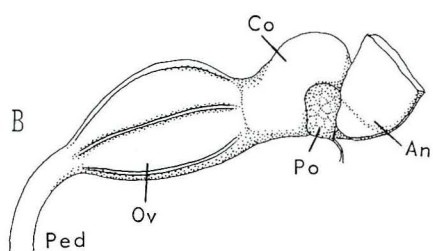
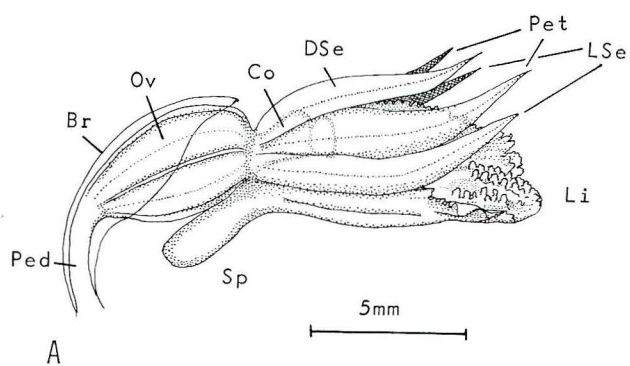
さ2~3 cmで白色、唇弁にはうすい赤紫の斑点がある。今回は15個体を測定したところ、花茎塊の長径は17~42 mm，花茎の長さは20~44 cm，1個体当りの花の数は7~31個であった。

観音崎では、7月7日に調べたところ、東京湾海上交通センター近くの西斜面で標高30~40 m，シイ・タブノキ・シロダモの林下に100株以上はえており、多くは10株前後の集団をつくっていた。また、横須賀市博物館付属馬堀自然教育園で、同じ時期に、シイ林下に4，5株が1か所にかたまってはえていた。

9月20日になって、馬堀自然教育園で、7月に花茎



タシロラン（横須賀市観音崎，1983年7月7日）



の出ていた場所を掘り起こしたところ、4本の根茎を見つけた。そのうちの1本は直径約1cmの塊茎から出ていた。根茎は4本とも直径1cmの球形の塊茎を1～2cm間隔につけており、将来この小さな塊茎が花茎をつける花茎塊になると思われる。一方7月に観察した花茎塊は中がスポンジ状で空洞化しており、花茎とともに朽ちるようである。

D. van LEEUWEN によれば、タシロランは自家受精をし、開花後3、4日で結実するそうで (TUYAMA, 1967)、花茎の出ている時期が短期間であるため発見されにくいようである。しかし一方で、種子が非常に小さい (1/10,000,000 g) ためか本種の分布は広く、オーストラリアやアフリカでも発見されている (TUYAMA, 1967)。日本ではこれまで九州と沖縄で発見された記録しかないが、花の時期 (6月～7月) に注意して捜せば三浦半島ばかりでなく他の地域でも発見される可能性は大きいと思われる。本種はラン科植物の中でもかなり特異な生活史をもつものと考えられるので、引き続き調査を進めたい。

観音崎のタシロランは東京湾海上交通センターの奥山隆士所長が通勤途中に見つけられたものであり、同センター職員の鈴木香代子氏を通じて横須賀市博物館に連絡をいただいた。奥山氏のお話では昨年 (1982年) にも今年 (1983年) ほど多くはないが同じ場所にはえ

ていたそうである。貴重な資料の提供をいただいた両氏に深謝する。

標本は、標本番号 Y C M—1736①～③, 1737 (観音崎), 1755 (鷹取山), 2503 (久里浜) として横須賀市博物館に登録し収蔵されている。

文 献

- 大谷 茂 1959 三浦半島種子植物の検討 (其の三). 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), 4: 19—25, 2 pls.
- 大谷 茂 1960 三浦半島植物雑記. 同上, 5: 18—26, 図版4—7.
- 大谷 茂 1979 神奈川県植物分布資料 (9). 横須賀市博物館館報, 25: 1—6.
- OHTANI, S. and SUZUKI, S. 1961 A new orchid, *Epipogium dentilabellum*. Sci. Rep. Yokosuka City Museum, 6: 27—29, 1 pl.
- TUYAMA, T. 1967 On *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl. in Japan and its adjacent regions, with remarks on other species of the genus. Journ. Jap. Bot. 42 (10): 295—311.

(横須賀市自然博物館)

図の説明 (p. 72)

A, 花の全形, 側面. B—E, 花被を取り除いた花. B, 側面. C, D, 腹面. D, 葯を取り除いたずい柱. E, 背面. F, 花茎と花茎塊. G, H, さんご状地下茎と根茎. An, anther (葯). Br, bract (苞葉). Co, column (ずい柱). CRh, coralloid rhizome (さんご状地下茎). DSe, dorsal sepal (背側外花被片). FTu, florigenous tuber (花茎塊). Li, lip (唇弁). LSe, lateral sepal (側生外花被片). LSh, leaf sheath (葉鞘). Ov, ovary (子房). Ped, pedicel (花柄). Pet, petal (内花被片). Po, pollinarium (花粉塊). Rh, rhizome (根茎). Sp, spur (距). Stg, stigma (柱頭). Stm, stem (茎).